

「ほっかいどう学」地方創生塾(伊達市大滝区) 2年目 第3回

日 時	令和2年 10 月 12 日(月) 19 時～21 時
会 場	優徳集会所
参加者	6名
内 容	テーマ「北海道公民館大会 in そうべつ」の参加報告 と2年間の活動のまとめについて検討

第3回ほっかいどう学地方創生塾(伊達市大滝区)は、10月6～7日に壮警町で開催された北海道公民館大会の報告をしました。参加したメンバーから、たきしんくらの取組は、地域住民が楽しく学んで、主体的に地域の未来を創っていく活動であるが、実は「公民館運動」の動きに近いと感じたことを伝えました。また、基調講演、シンポジウム、分科会などから得た最新の情報を共有し、「おおたき新聞」の来月号の記事について検討しました。

また、2年間の活動のまとめ方を話し合い、「私達が考える災害が起きた時の大滝住民の動きの構想のまとめ」を作ることにしました。その内容を検討するため、ブレインストーミング的手法を使って、いろいろな意見を出し合い、ホワイトボードにまとめました。

第2回の創生塾で学んだ気付きから、「水・暖・トイレ」が災害時に必要なキーワードということから、大滝の中にある資源や活用方法について洗い出しました。夏であればキャンプできる公園(子どもの遊具もあり)がいくつかあること、冬であれば「薪ストーブ」の使い方の説明や薪を提供できる人材がいることなどの情報が提供されました。また、湧き水があること、飲料でなくトイレを流すために使える水源などの確認、地域の人材や他地域との連携など、事前に情報共有することのほか、顔の見える関係性を築く必要があることを確認しました。

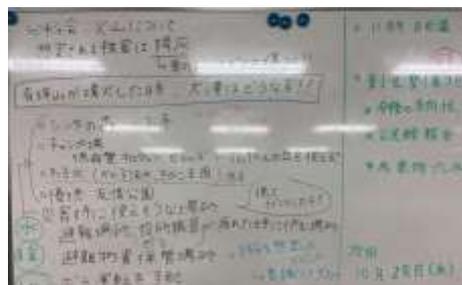
成果と課題

自分達の取組が「公民館運動」に近い活動をしていると認識できたことは大きな励みになりました。創生塾2年目の最終的なゴールも見据えることができ、自分達がたきしんくらぶとして、住民としてできることなどを自覚して残りの創生塾での学びを積み上げていこうというビジョンが持てました。

また、これまでも「おおたき新聞」で防災についての記事を掲載してきましたが、これからも少しずつアップデートした情報を掲載していきたいと思うので、より住民の知りたい内容や役に立つであろう情報をメンバーで吟味して取り組んでいく必要があると感じました。



【報告を聞いたたきしんくらのメンバー】



【ホワイトボードにまとめられた内容】